

設備投資支援

SKシンヨウ機械株式会社

半導体関連の需要回復傾向  
増産注文が増えたことで  
NC旋盤を1台追加



設備貸与支援の活用で  
多彩なニーズへの対応を  
可能に



SKシンヨウ機械株式会社  
代表取締役会長  
佐藤 良信 Sato Yoshinobu  
〒018-0411  
にかほ市院内字下坂20  
TEL:0184-36-2722  
FAX:0184-36-2757

NC旋盤の機械を導入し、受注増

にかほ市院内で個人事業として創業したSKシンヨウ機械。創業者である佐藤良信さんはもともと地元の産業機械・精密機械加工を手掛ける企業で、旋盤(丸もの)加工を担当していた経験を持つ。

「24年間勤めて退社し、その後別の企業で5年ほど勤務しました。その後独立し、自宅の敷地内で事業を始めました。機械加工には「角もの」と「丸もの」の2種類があります。にかほ市内には100社以上の製造業がありますが、丸もの加工をやっている事業者はあまりいません。多少なりともニーズはあるのではと考えました」。

当初は佐藤さん1人で汎用の旋盤機械を準備し、対応していた。あるとき、前職での繋がりからNC旋盤の機器を持っていれば仕事を受注できるという話があり、平成23年に導入。想像以上に需要があり、従業員を増やして対応することに。現在は役員3名、従業員4名の体制で生産を行っている。

CNC旋盤の導入により業務の幅を広げる

コロナ禍前、取引先が航空機産業に参入することとなり、自社でも丸もの加工に加えてネジ穴を開けることが可能な「CNC旋盤」を導入した。航空機専用のエンジンやタービン部品の加工が可能となった。しかし、コロナ禍で航空機分野の発注は減少してしまう。

「コロナが収まりつつあり、航空機関連の発注は、これから動き始めると思います。しかし、徐々にそれ以外の発注が増えてきています」。

そこで昨年、あきた企業活性化センターの設備貸与を活用し、新たにNC旋盤の機械を導入した。今後、CNC旋盤の機器を航空機で使用するを見据え、増えつつあるその他の多彩なニーズに対応するためだ。

佐藤さんは今後、事業を若手に引き継ぐことも考え、この春、SKシンヨウ機械株式会社として法人化。技術的にもレベルアップを目指し、事業を拡大していきたいと意気込みを語ってくれた。

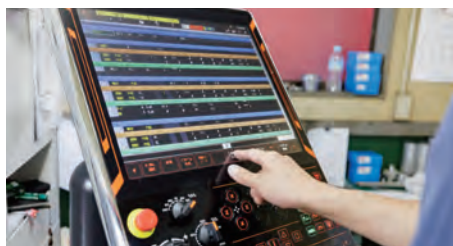
▶ 活用事例  
設備投資支援

設備の導入により、経営基盤の強化を目指す企業に対し、必要とする設備を割賦販売またはリースします。

【お問い合わせ】  
設備・研究推進課  
TEL.018-860-5702



角もの加工と異なり、丸もの加工は1つずつ加工をする必要があるため手間が多くなるという。



新たに導入したNC旋盤。操作パネルは、従来より大型化し、作業効率にも貢献している。



直径3mm程度の小さいものから、最も大きいものでは直径300mmの部品を製造している。